

# 平成22年度 糖尿病・内分泌内科後期研修プログラム

## 1. プログラムの目標

研修カリキュラムにのっとり、糖尿病専門医として糖尿病治療に必要とされる知識・技能・診療能力を習得する。

チーム医療の実践を学ぶ。

プログラム終了後に糖尿病専門医受験資格を得る。

## 2. 指導スタッフ

(研修責任者) 亀谷 富夫 (内科学会認定医、糖尿病学会専門医・指導医)

共同指導者：東 滋 (内科学会認定医)

鳥田 宗義 (内科学会認定医)

## 3. プログラムへの参加資格

2年間の初期研修後1年間の一般内科研修を修了し、内科認定医試験を受験予定である者。

またはすでに内科認定医資格を有する者。

## 4. プログラムの修了年限

本プログラムの修了年数は3年間とする。希望により、2年間までの延長が可能である。

終了後、研修中の診療態度等を参考に、当院の糖尿病・内分泌内科専門医として就職する事が可能である。また、金沢大学糖尿病・内分泌内科・大学院等での臨床研究・基礎研究に従事する事も推奨する。

## 5. 研修カリキュラム

研修カリキュラムは、便宜上3年間に分けて到達目標を設定するが、糖尿病外来・糖尿病教室・入院患者の症例検討会を中心に個々の患者を通して全体的に把握するよう努めるものとする。

### 1) 1年目

糖尿病患者の病歴聴取に際し注意すべき点(症状、家族歴、既往歴、発症時の状態、増悪因子、治療経過、合併症の出現時期、生活習慣等)を理解し、実行する。

糖尿病の診断基準及び病型分類に関する学会勧告の内容を理解し、臨床応用できるようにする。

75gOGTTにおける血糖及びIRI反応の解釈の仕方を理解する。

糖尿病の診断や病型分類に必要な検査(血糖、ケトン体、C-ペプチド、抗GAD抗体、ICA、HLA、二次性糖尿病スクリーニング等)を指示でき、かつ評価できるようにする。また、糖尿病の血糖コントロール状態を評価する検査(一日血糖、HbA1c、グリコアルブミン、1,5-AG等)に関してもその意味を理解する。

糖尿病合併症を評価するのに必要な検査（眼科的検査、尿蛋白、尿アルブミン、腎機能、腱反射、振動覚、神経伝導速度、CVR-R、下肢脈拍の触知、動脈硬化の有無等）を指示し、理解できるようにする。

食事療法の理論と実際の知識を、食品交換表を通して習得し処方できるようにする。また、患者にも利用方法を指導できかつその効果が評価できるようにする。

運動療法の理論と実際の知識を、運動療法の手引きを通して習得し処方できるようにする。

また、運動療法の実施に当たっては副作用に注意し安全に指導できるようにする。

経口血糖降下剤の作用機序や使用適応、副作用について理解し、正しく使用できるようにする。

とりあえず2ないし3種類の使用に習熟する。

インスリン注射療法に関しては、その適応をはっきりと理解し各種インスリン製剤の特徴を知り、応用できるようにする。生理的インスリン分泌（基礎分泌+追加分泌）の意義を理解させ各病型に応じたインスリン使用ができるようにする。

薬剤の副作用、特に低血糖に対する正しい知識と対処の仕方を体得する。薬剤相互作用についても理解する。

受け持ち患者に対する個人指導、糖尿病教室における講義を通しての集団指導を体験し、カリキュラムをつくり、実施・評価できるようにする。

## 2) 2年目

1年目におけるカリキュラム内容の確認と徹底を図る。

糖尿病の重症度（境界型からケトアシドーシス-昏睡に至るまで）を診断でき、かつその程度に応じた対処の仕方ができるようにする。特に前昏睡～昏睡患者の治療の理論と実際を知り、実施かつ評価することができるようにする。（少量インスリン持続静注療法など）

眼底検査の基礎的手技を習得し、網膜症の診断が自分でできるようにする。合併症の進行度を評価でき、かつ合併症を伴う糖尿病の治療の理論と実際の知識を習得する。また、実際に治療を行い、その効果を評価できるようにする。

インスリン自己注射及び血糖自己測定の指導ができるようにする。

個々の患者に適した治療目標の設定ができるようにする。

糖尿病協会や種々の患者会等の教育活動に参加し、それらの意義を理解する。

## 3) 3年目

2年目までのカリキュラム内容の確認、徹底を図る。

糖尿病以外の疾患を合併した場合の治療の仕方につき習熟する。

糖尿病妊婦の管理を習得、実施しその効果が評価できるようにする。

コメディカルを含む患者指導チームの一員として、そのあり方、質の向上方法について意見交換を行い、患者教育に対する正しい認識を持つ。